



かしばの道再発見～香芝の道標と近世主要街道～

香芝市の誕生と交通網の発展

奈良盆地の北西部、北の信貴・生駒山系から南の葛城・金剛山系へ美しい青垣山が連なっている。その中央部、奈良県と大阪府が境を接する二上山麓に香芝市が位置している。明治22年(1889)3月、町村制施行により、葛下郡に五位堂村、二上村、下田村、志都美村がそれぞれ成立し、同30年(1897)には、葛下郡と広瀬郡が合併して北葛城郡となった。昭和31年(1956)4月には、4ヶ村が合併し、4ヶ村と當麻町(当時)加守を加えた組合立「香芝中学校」の「香芝」をとって北葛城郡香芝町が成立した。平成3年10月には、県下10番目、全国660番目の市として、香芝市が誕生した。伝統産業を継承しつつ、大阪の都市圏に隣接する地理的条件からベッドタウン都市として急速に発展してきた。

香芝市は古より東西交通の要衝として二上山麓の諸峠を越えて河内方面と結ばれ、鉄道敷設以前は、長谷・伊勢、當麻・吉野・大峯などへの参拝を目的とした社寺詣での道として、また、なだらかな峠を越えて物資の輸送が頻繁となって、大和と河内を結ぶ産業道路として大いに利用された。東西の交通路として、伊勢街道・田原本街道・堺街道があり、南北道は宗教色が強いが、長尾街道・當麻道・狐井街道・太子道があった。

これらの諸道は江戸～明治時代にかけて大いに利用され、今に残る道標は古い道筋と道路の重要性を示していて、街道のはたした役割を物語っている。

明治以降になると、次第に道路改修が行われ、国道や県道などに順次指定されていった。戦後、伊勢街道に沿って国道165号線が指定され、當麻道は大幅に拡張され、主要県道大和高田・王寺線となり、長尾街道の一部は主要県道御所・香芝線となった。さらに昭和44年(1969)3月、西名阪自動車道が開通し、香芝インターチェンジが設けられ、大阪方面への交通の便はよくなった。また鉄道については、現在、近鉄線5駅、JR線3駅があり、他の町と比べても非常に充実している。明治24年(1891)に大阪鉄道(現、JR)が王寺～高田間を敷設すると同時に下田駅を開設し、さらに高田～五條間、高田～桜井間を開通させた。昭和2年(1927)には、大阪電気軌道株式会社(現、近鉄)が五位堂、大軌下田、二上、関屋の各駅を、昭和4年(1929)には、二上山駅を開業した。これによって、香芝は鉄道においても交通至便な地となっていった。

古代交通の要衝・香芝

香芝市は古代から大和と河内を結ぶ交通の要衝として発展してきた。河内から二上山麓を越えて大和の横大路に接続する道は、南から平石峠・竹内峠・岩屋峠・穴虫峠・田尻峠・関屋峠の諸峠が存在する。記紀にみえる大和の西の要である「大坂」は、穴虫峠に当てる説が有力である。『日本書紀』崇神9年3月の条に、「赤盾八枚・赤矛八竿を以て、墨坂神を祀れ。亦黒盾八枚・黒矛八竿を以て、大坂神を祀れ」とある。墨坂神は墨坂神社(宇陀市)、大坂神は大坂山口神社(香芝市)に比定され、両社は古代大和における東西の重要な峠を守護していることがわかる。

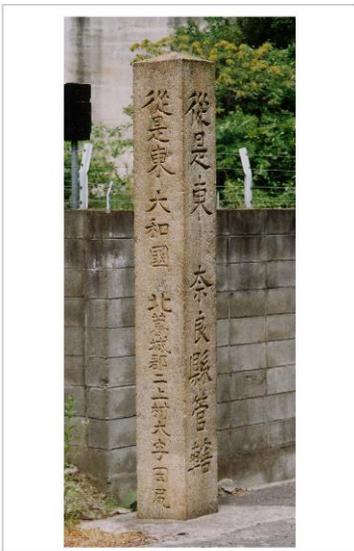
また、『万葉集』巻10に、「大坂をわが越え来れば二上に黄葉流る時雨ふりつつ」(2185)と詠まれた古代大坂越えの道について、記紀には戦乱のたびに記事がみえる。『日本書紀』崇神10年9月27日条の武埴安彦と妻吾田媛の謀反の記事では、「…武埴安彦と妻吾田媛と、謀反逆けむとして、師を興して忽に至る。各道を分りて、夫は山背より、婦は大坂より、共に入りて帝京を襲はむとす。時に天皇、五十狹芹彦命を遣して、吾田媛の師を撃たしむ。則ち大坂に遮りて、皆大きに破りつ。…」とある。また、『古事記』履中段の墨江中王の反逆の記事では、天皇が難波宮から倭へ脱出する際、「波迹賦坂に到りて、難波宮を望み見たまへば、その火なほ炳くもえたり。(中略)大坂の山口に到り幸でましし時、一りの女人に遇ひたまひき。其の女人の白しけらく、「兵を持てる人等、多に茲の山を塞たり。當岐麻道より廻りて越え幸でますべし。」とまをしき。」とある。また、『日本書紀』天武元年7月条の壬申の乱の記事では、「…三百の軍士を率て、龍田に距かしむ。往佐味田君少麻呂を遣して、数百人を率て、大坂に屯ましむ。鴨君蝦夷を遣して、数百人を率て、石手道を守らしむ。」とみえ、「近江の軍、大坂道より至ると聞きて、將軍軍を引きて西に如く。當麻の衢に到りて、壺伎史韓国が軍と、葦池の側で戦う。」とある。また、同8年11月条に、「初めて関を龍田山・大坂山に置く。仍りて難波に羅城を築く。」とあり、大坂の地が交通の要衝として強く意識されていたことがわかる。

凡例

1. ホームページ版の道標と分布地図の番号は統一しています。なお、分布地図では街道との関係がわかるように移動された道標には、元の場所に印があります(一部推定)。
2. 本文中の道標銘に(東)(西)(南)(北)を表記していますが、これは現在の道標が面している方向です。移動したものの、その可能性があるものには記していません。また、法量は地上から上端までとし、(□×□×□)は(高×幅×奥行)で単位はすべて(cm)です。
3. 銘文は極力原文を尊重していますが、異体字は読み易いように改めたものがあります。また、□□□で表示している部分は欠失・土中埋没などにより判読できないことを表しています。

二上地区

No.1 田尻峠の里程標(田尻)



□田尻峠の里程標(田尻)
長尾街道(田尻越)大阪府と奈良県の府県境に所在。

(銘文)
従是東 大和國 北葛城郡 二上村 大字 田尻 (南)
距奈良市橋本町元標 八里三町五十五間
距奈良県北葛城郡役所 二里十六町二十五間(北)
距奈良県北葛城郡高田町元標 二里三十五町十三間
従是東 奈良縣管轄 (東)

大正九年三月建 奈良縣(西)

(法量・建立年)
法量 二六八・〇×三〇・〇×三〇〇
建立年 大正九年(一九二〇)

(解説)
近鉄関屋駅から西へ約一・三km、田尻峠の府県境に建つ里程標です。太政官達第四一三号(明治六年二月二〇日)の「諸街道里程取調方法並二元標及里程標柱書式ヲ定ム」により、各府県に各街道の距離を測定し、里程標を建て道路状況を把握するための里程調査が命じられました。
奈良県の道路整備は、奈良県告示第三〇号(明治二十六年三月二日)により、甲種、乙種假定県道、甲種里道が定められ、同告示第九〇号(大正九年四月一日)にて県道路線が認定され、道路元標の位置が定められました。田尻峠の里程標は銘文からこの大正九年の整備に伴って建立されたことがわかります。

No.2 大楠公矢除観音道(関屋)



□大楠公矢除観音道(関屋)
長尾街道の関屋越と田尻越の合流点に所在。

(銘文)
筆者 美濃國大垣 森島岱華(北)
左 大楠公矢除観音道 〇七杵(東)
昭和三十七年五月 石浪庄蔵建之(南)

(法量・建立年)
法量 一六〇・〇×二七・〇×一七・〇
建立年 昭和三十七年(一九六二)

(解説)
隣接した店舗の取り壊しと周辺道路の拡幅工事により、現在所在不明。

No.3 下池南の道標(閨屋)



□ 下池南の道標(閨屋)

長尾街道と田原本街道の分岐点に所在。

(銘文)

右たへまはせ いせ道 世話人 神南□□□ (東)

日本 是 (南)

正一位小北大明神 □ 左□□□

五社内

左 たはらもと 泉州堺 榮壽 (西) ほうりう寺

(法量・建立年) 法量 一五〇・〇×二八・〇×二一・〇 建立年なし

(解説)

コンクリートによる基礎固めにより、下部の銘一部判読不明。文献史料では、以下のとおり表記するものがある。

南面三行目下 左七〇町
西面三行目下 神南辺隆光

No.4 東石坂の道標(穴虫)



□ 東石坂の道標(穴虫)

長尾街道と伊勢街道の分岐点に所在。

(銘文)

南無阿弥陀仏為妙心直誓宗□□□ (北) 法位 妙願

川よりみぎ たふまみち (西)

梵字 大みち八 はせみち

かのくににみちびきたまへはつせ寺 (南) つみはたえまのりのりはちす葉

巳 願主 (東) 延宝七年七月日 未 大坂住

(法量・建立年) 法量 七六・〇×二一・〇×一九・〇 建立年 延宝七年(一六七九)

(解説)

北葛城郡内、最古の道標。

No.5 長尾街道の地蔵石仏・台石道標(穴虫)



▣ 長尾街道の地蔵石仏・台石道標(穴虫)

長尾街道と伊勢街道の分岐点に所在。

(銘文)

右 當麻寺道 法界群靈

(法量・建立年) 台石 五三×四六×三九(地蔵高九) 建立年 なし

(解説)

長尾街道は大阪側から田尻越で閨屋の集落内を東へ向かいます。閨屋は江戸時代中頃から数軒の旅籠が軒を連ねて、小さな宿場町として発展してきました。下池の東側には、立派な道標があり、田原本街道との分岐点となっています。ここには、郡山藩の番所が置かれていた時期もあり、明治になって、往来が激しかった頃は、駕籠や馬車荷にたすさわの職業の人びとが住んでいたといえます。石坂を下ると視界が広がり、あしびハイツのニュータウンが見えます。手前の青果店の側には、地蔵石仏を祀るお堂があり、その台石が道標となっています。現在は向きが変わり方向指示が逆になっていますが、右折すれば長尾街道です。伊勢街道はここを起点にし、府県境を越えてきた道は最初の大きな分岐点となります。

No.6 太子道の道標(穴虫)



□ 太子道の道標(穴虫)

長尾街道と太子道の交差点に所在。

(銘文)

南無阿弥陀佛

左 たへま つぼさか

左 大峯山上

右 大さか

左 たいし

文政十三年寅六月十三日

願主 船木氏建之

(法量・建立年) 法量 八六×二三×二三 建立年 文政一三年(一八三〇)

(解説)

太子道は長尾街道との道標で交差する。かつては近鉄線を越え、高山台下の谷筋にそって太子道は伸びていました。現在は所々に道の名残がある程度です。

No.7 追分地藏石仏の道標(穴虫)



㊦ 追分地藏石仏の道標(穴虫)

太子道(塚街道)と新道田尻越との分岐点に所在。

(銘文)

八木

右 大坂道 箱虎

左 さかい道

(法量・建立年)

法量 地藏高三〇

建立年 なし

(解説)

穴虫峠の国道一六五号線と県道香芝太子線の分岐するあたり、東向きに位置しています。この石仏の左右に方向指示があり道標を兼ねています。牛馬を使った物資の往来で賑わっていた穴虫峠。この石仏は、今は喧噪の中で忘れられたように佇んでいます。交通手段が変わった現代でも峠の安全を見守ってくれているようです。

No.8 二上村道路元標(穴虫)



□ 二上村道路元標(穴虫)

国道一六五線に平行する穴虫の旧道(塚街道)中程に所在。

(銘文)

二上村道路元標

奈良縣 (背面)

(法量・建立年)

法量 九〇×二五×二五(上)〇は荒石

建立年 なし

(解説)

道路元標は旧道路法(法律第五八号、大正八年四月一〇日公布)に基づき、道路の起点や終点、経過地を表示するための標識のことで、各市町村に1ヶ所設置するなど、旧道路法施行令に詳しい。奈良県では、奈良県告示第九二号(同九年四月一日)にて、道路法施行令第八條二依り道路元標ノ位置左ノ通定△とあり、市内では各旧村(五位堂村・二上村・下田村・志都美村)に設置されました。しかし、新道路法(法律第一八〇号、昭和二十七年六月一〇日公布)の施行令により設置基準がなくなり、道路の拡幅や市町村合併等により、その多くが失われました。市内では、下田と二上の二基だけが残っています。

No.9 山麓の當麻道の道標(畑)



山麓の當麻道の道標(畑)

山麓の當麻道の起点。

(銘文)

大峰山山口

左

たゑま口

右大坂さかい

文政十二年丑八月

十一本立 源蔵

(法量・建立年)

法量 五四・〇×二〇・〇×一四・〇

建立年 文政二年(一八二九)

(解説)

畑七丁目、近鉄二上山駅南側の旧道沿いに所在。山麓の當麻道の起点で、堺街道に接続する。文政年間、畑の源蔵が寄進した道標の一つ。

No.10 畑新池の道標(畑)



畑新池の道標(畑)

畑の新池付近に所在した道標。現在は高垣邸保管。

(銘文)

左大坂さかい

大峰山上

右

當麻寺

左長谷寺

文政十二丑八月是立

十一本願主源蔵

(法量・建立年)

法量 六五・〇×一九・〇×一六・〇

建立年 文政二年(一八三〇)

(解説)

山麓の當麻道の道標。文政年間、畑の源蔵が寄進した道標の一つ。

No.11 畑新池の大峯山常夜燈(畑)



畑新池の大峯山常夜燈(畑)

畑・新池堤防上に三基所在のうち。近隣から集められてきたもの。

(銘文)

明和四丁亥年

十一月吉日

大峯山上常夜燈

南 大峯山上 たゑま

道

北 大坂 さかい

(法量・建立年)

法量 総高二五〇 建立年 明和四年(一七六七)

(解説)

山麓の當麻道の常夜燈。新池北堤の上に西から文化五年(一八〇八)銘の金毘羅大権現、天明六年(一七八六)銘の大峰山常夜燈、東に明和四年(一七六七)銘の大峯山常夜燈が立つ。

銘文 右 天明六丙午歳 天明六〇一七八六年 丙午 総高二〇

正面 大神宮

左 五月吉日

銘文 右 四月吉祥日

正面 金毘羅大権現

左 文化五戊辰年

文化五〇一八〇八年 戊辰 総高三〇

No.12 畑 塚街道の道標(畑)



■ 畑 塚街道の道標(畑)

長尾街道(塚街道)と山麓の當麻道への分岐点に所在した。

(銘文)

右大阪塚

左初瀬七里

左 上山是ヨリ二十丁

文政十二年八月

本願主 源蔵寄進

(法量・建立年)

法量 六七・〇×二〇・〇×一五・〇

建立年 文政二年(一八二九)

(解説)

現在、所在不明の道標。文政年間、畑の源蔵が寄進した道標の一つ。

No.13 出口橋修學院の道標(礮壁)



■ 出口橋修學院の道標(礮壁)

當麻道と塚街道の合流点に所在。

(銘文)

二上嶽

修學院(東)

南叡山

愛國會内三宝會(西)

(法量・建立年)

法量 四二・〇×二一・〇×一五・〇

建立年 なし

(解説)

礮壁の出口橋、庚申塔横にある道標。當麻道は塚街道と合流する。右折してすぐ「北野の商い地蔵」の小堂がある。ここで長尾街道は南へ、塚街道は東へと分岐する。

No.14 礮壁 長尾街道の道標(礮壁)



■ 礮壁 長尾街道の道標(礮壁)

礮壁の集落内、長尾街道沿いに所在。

(銘文)

左 たへま

(法量・建立年)

法量

建立年 不明

(解説)

長尾街道(當麻道)沿いの道標。民家の塀に取り込まれているため、三方の銘文は不明。



■磯壁新池の道標(磯壁)

当麻道と岩屋越の分岐点 磯壁新池西側に所在。

(銘文)

- ① 左たえま寺
 - ② すくたえま
 - ③ ↑石光寺
- 右ゆわやみち すくたつた
 中川金造 天保二卯十二月

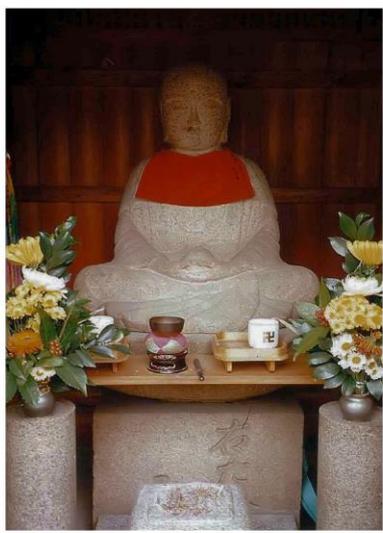
(法量・建立年)

法量 建立年 天保二年(一八三二)

(解説)

当麻道は王寺町から上中・高・北今市・下田を経て、磯壁で堺街道に合流し、商い地蔵のお堂から長尾街道と道と同じく南下します。分岐し新在家方面へ向かい、磯壁新池で岩屋越と石光寺・当麻寺・竹内街道へと分岐します。磯壁新池は、近年開通した磯壁新在家線の下つたところであり、葛城市と境を接しています。この池に面して二本の小さな道標が並んであります。その真ん中の道標には、小さな地蔵菩薩が二体刻まれています。東面する地蔵の下にはすくたつた」とあり、北面する地蔵にはすくたえま」とみえます。参詣道として多くの人々が利用したと思われます。また、ここは二上山雌岳の南側を通り河内に抜ける岩屋越への起点でもあります。穴虫越と同じく古代から大和と河内を結ぶ峠越えの一つでした。

志都美地区



■当麻道 地蔵石仏の台石道標(上中)

上中集落内、当麻道沿いの小堂に安置。

(銘文)

右たへま
みち

享保十六年亥八月廿四日

(法量・建立年)

法量 台石 五一・〇×四八・〇×三七・〇 地蔵高七七・〇
 建立年 享保一六年(一七三二)

(解説)

当麻道は王寺町から上中・高・北今市・下田を経て、磯壁で堺街道に合流し、さらに長尾街道と道と同じく南下します。途中分岐して新在家方面へ向かい、磯壁新池で岩屋越と石光寺・当麻寺方面に分岐し竹内街道に接続します。この道は、当麻寺・壺坂寺・大峯山・高野山・達磨寺・法隆寺・信貴山への参詣道として賑わっていました。
 JR志都美駅から、県道上下田線に沿って下田方面へ五〇〇ほど進むと、地蔵石仏を祀る地蔵堂があります。この石仏の台石が道標となっています。材質等から当初から一体ものとして造立されたようです。このお堂近くで当麻道は県道と分かれ、一直線に高・北今市を経て下田へ向います。途中、高で田原本街道と交差しますがその辻にも小さな道標があります。かつての旧街道の雰囲気を残す町並みは、志都美駅から地蔵堂あたりまでですが、石仏や道標などが当時の賑わいを伝えています。



■高 当麻道の道標(高)

当麻道と田原本街道の交差点に所在。

(銘文)

右大坂さかい
すくたへま (北)
左はしを
すくほう里うじ (東)

(法量・建立年)

法量 六八・〇×三三・〇×一六・〇 建立年 なし

(解説)

当麻道は王寺町から上中・高・北今市・下田を経て、磯壁で堺街道に合流し、さらに長尾街道と道と同じく南下します。分岐し新在家方面へ向かい、磯壁新池で岩屋越と石光寺・当麻寺方面に分岐し竹内街道に接続します。この道は、当麻寺・壺坂寺・大峯山・高野山・達磨寺・法隆寺・信貴山への参詣道として賑わっていました。
 JR志都美駅から、県道上下田線に沿って下田方面へ進むと当麻道は県道と分かれ、高・北今市を経て下田へ向います。途中、高で田原本街道と交差する辻にこの道標があります。かつての旧街道の雰囲気を残す町並みは、志都美駅から地蔵堂あたりまでですが、石仏や道標などが当時の賑わいを伝えています。

No.18 當麻道の道標(上中)



□ 當麻道の道標(上中)

當麻道と新道(県道)分岐点に所在したと推定。

(銘文)

黒松喜右衛門建之

なら

左 法里うじ道
だるま寺

たゑま

右 よしの道
金剛山

天保三壬辰年三月吉祥日

(法量・建立年)

法量 一・二・〇×四・〇×四・〇・〇

建立年 天保三年(一八三二)

(解説)

現在、黒松邸(高)に保管されている道標です。

No.19 太子道 地藏石仏の道標(今泉)



□ 太子道 地藏石仏の道標(今泉)

太子道、志都美神社石鳥居近くに所在。

(銘文)

安永八亥天

右 たつた

地藏菩薩立像 道空信士

左 大坂さかい

道

四月二十一日

(法量・建立年)

法量 地藏高二四

建立年 安永八年(一七七九)

(解説)

志都美神社の門前、石製の標柱に道標を兼ねた地藏菩薩立像が建立されています。この標柱の前をかつての太子道が通っていたことを証す貴重な資料です。太子道は聖徳太子の亡骸を運んだ道(葬送の道)といわれていますが、太子信仰を背景に、太子を信仰する多くの方々が法隆寺から太子廟のある叡福寺(太子町)まで参拝された道であったと考えられます。また、道沿いには、「大峯山」と刻まれた石燈籠が各所に配置され、途中、長尾街道に入り、吉野・大峯に向かう参詣道でもありました。市内の主要街道の中でもとくに社寺詣での道として賑わっていたようです。

下田地区

No.20 逢坂 太子道の道標(逢坂)



□ 逢坂 太子道の道標(逢坂)

伊勢街道と太子道の交差点に所在した。

(銘文)

右 大坂道

左 上ノ太子

(法量・建立年)

法量

建立年 なし

(解説)

現在は、逢坂旧地区公民館で保管されている。

No.21 逢坂 伊勢街道の道標(逢坂)



□逢坂 伊勢街道の道標(逢坂)

伊勢街道と太子道の交差点に所在した。

(銘文)

左大坂さかい

右はせ多武峯

左なら郡山

稲屋智暎信女

逢坂村

友平

(法量・建立年)

法量

建立年 なし

(解説)

現在は、逢坂旧地区公民館で保管されている。

No.22 下田村道路元標(下田)



□下田村道路元標(下田)

下田地区公民館に移設。

(銘文)

下田村道路路口(土中埋没)

(法量・建立年)

法量 四五〇×二四〇×二四〇

建立年 なし

(解説)

下田村道路元標は、平成一八年六月、下田東四丁目の個人邸前からJR香芝駅に隣接する下田地区公民館の前庭に移設されています。

道路元標は旧道路法(法律第五八号、大正八年四月一〇日公布)に基づき、道路の起点や終点、経過地を表示するための標識のことで、各市町村に1ヶ所設置するなど、旧道路法施行令に詳しい。奈良県では、奈良県告示第九二号(同九年四月二日)にて「道路法施行令第八條二依り道路元標ノ位置左ノ通定ム」とあり、市内では各旧村(五位堂村・二上村・下田村・志都美村)に設置されました。しかし、新道路法(法律第一八〇号、昭和二十七年六月一〇日公布)の施行令により設置基準がなくなり、道路の拡幅や市町村合併等により、その多くが失われました。市内では、下田と二上の二基だけが残されています。

No.23 伊勢街道 JR香芝駅前の道標(下田)



□伊勢街道 JR香芝駅前の道標(下田)

伊勢街道、JR香芝駅前に所在。

(銘文)

顯宗天皇陵 北西十二丁

武烈天皇陵 北西廿七丁

大阪皇巡拝会

(法量・建立年)

法量 一五〇×二四〇×二四〇

建立年 なし

(解説)

No.24 下田 當麻道の道標(下田)



□ 下田 當麻道の道標(下田)

下田北交差点に所在した。

(銘文)

右 たつた ほうりうじ 發起口口塚
すぐ大坂 さかあ 神南辺隆光

左 たつた ほうりうじ
南無阿弥陀仏

左 たたえま 諸国廿五ヶ所九番おくの

あん

惣本山知恩院

宿神の御本尊

いしのかみみ於いほうあり

(法量・建立年)

法量 一三〇・〇×四〇・〇×三六・〇
建立年 なし

(解説)

現在、市立下田小学校に保管されています。

No.25 伊勢街道の道標(下田)



□ 伊勢街道の道標(下田)

伊勢街道と當麻道の合流点に所在した。

(銘文)

右 たたえま

道

左 はせいせ

右 大坂道

左 たつた道

(法量・建立年)

法量 一一八・〇×三四・〇×一九・〇

建立年 なし

(解説)

現在、市立下田小学校に保管されています。

No.26 下田東・地藏石仏の道標(下田)



□ 下田東・地藏石仏の道標(下田)

伊勢街道と當麻道の合流点に所在した。

(銘文)

右 田原本

地藏菩薩立像

左 山見ち

(法量・建立年)

法量 地藏高 四一・五 台石銘 村中安全
建立年 なし

(解説)

下田東五丁目、中の池東側堤防下の地藏堂に祀られている。
左に方向をとると、高・上中方面に向かい、田原本街道に接続する。右に向かうと現在の西真美・真美ヶ丘方面で当時は山林・田畑であったことなどから方向指示が逆であることがわかる。おそらく建立時は現在地とさほど離れていない場所に祀られていたと推察される。

No.27 狐井街道の道標(狐井)



■ 狐井街道の道標(狐井)
狐井街道に所在。

(銘文)

よしの さがら
南 しま清
こうや 土はし

(法量・建立年)
法量 一〇〇・〇×一八・〇×一五〇
建立年 なし

(解説)

五位堂地区

No.28 土山池・地藏石仏の道標(瓦口)



■ 土山池・地藏石仏の道標(瓦口)
土山池西側堤の小堂に安置。

(銘文)

右別所
地藏菩薩立像
左大垣内定相

(法量・建立年)
法量 地藏高九〇・〇
建立年 なし

(解説)

瓦口の土山池堤の地藏堂に祀られている石仏で、両手を合掌する姿で表現されています。近世以降、穴虫峠から穴虫・磯壁・狐井の各村を通る堺街道、長尾街道と分岐し、関屋・逢坂・下田を通る伊勢街道の合流点が瓦口でした。石仏は場所を移して祀られている可能性もありますが、この付近から広陵町方面に通じる道があったことがわかります。

No.29 六道峯・地藏石仏の道標(別所)



■ 六道峯・地藏石仏の道標(別所)
市内東端、伊勢街道分岐点の小堂に安置。

(銘文)

右はせ道 法界施主
地藏菩薩立像
左なら道 □□□

(法量・建立年)
法量 地藏高五三・〇
建立年 なし

(解説)

穴虫で長尾街道と分岐した伊勢街道は、逢坂・下田を経て国道一六五号沿いに南下し、瓦口・別所の集落を通り、別所最西端で大和高田市・広陵町方面へと分岐します。この分岐点の小堂に祀られている石仏の光背には「右はせ道、左なら道」とあり、はせ道は築山方面、なら道は、みさぎ台を通り、大塚・安部・足相方面へ伸びていたようです。今の国道一六五号線ができるまでは、物資の輸送や参詣道として多くの人がびとが利用してきました。両方の道は現在も利用されていますが、周辺には新しい住宅が立ち並び、往時をしのぶものはこの石仏を祀る小堂のみとなっています。かつて、多くの旅人の安全を見守ってきた石仏ですが、今はその役目を終えました。理由はわかりませんが、二つに割られて痛々しい姿です。しかし、廃棄されずに小堂に安置され、花も供えられ、地域のお地藏さんとして大切に祀られています。